

風水害対策

土砂災害に備える

土砂災害は、集中豪雨や長雨などによって地表の土砂や岩が崩れ落ちるできごとで、予測が難しく、被害の大きい災害です。土砂災害から身を守るために、私たち一人ひとりが土砂災害に対して日頃から備えておくことが重要です。

ここでは、土砂災害から身を守るために最低限知っておくべき4つのポイントを紹介します。



大雨に備えて

住んでいる場所が「土砂災害警戒区域」か確認する

土砂災害警戒区域は、土砂災害防止法に基づいて、「急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)」により被害を受けるおそれのある区域を神奈川県が指定し、公表したものです。市内の指定区域については、15ページからの防災マップをご確認ください。

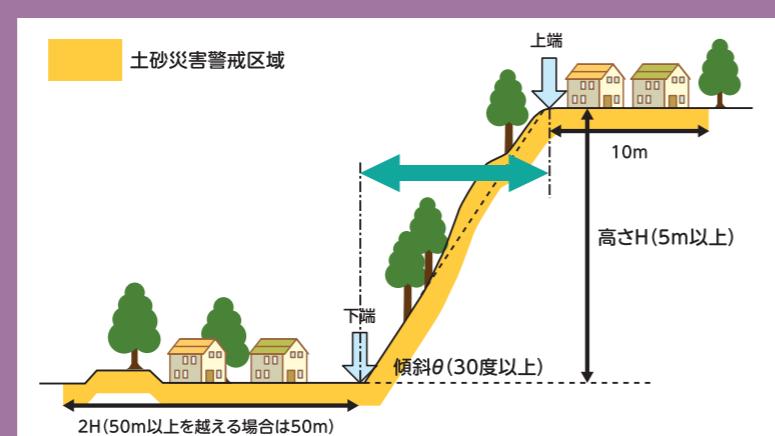
土砂災害警戒区域の範囲

「土砂災害警戒区域」とは

- 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
- 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50mを超える場合は50m)以内の区域

●区域の指定に関するお問い合わせ

神奈川県厚木土木事務所東部センター河川砂防課 ☎0467-79-2849



雨が
降り始め
たら

気象情報や土砂災害警戒情報に注意する

雨が降り出したら、テレビやラジオ、インターネットなどにより、気象情報や土砂災害警戒情報の収集を心がけましょう。土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。

気象情報・土砂災害警戒情報

- 気象庁ホームページ(防災気象情報)
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/flash.html>

- 神奈川県ホームページ(土砂災害警戒情報を補足する情報)
<http://dosyasaigai.pref.kanagawa.jp/website/kanagawa/gis/index.html>



前兆現象
に注意

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)の前兆現象を知っておく

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)が発生するときには、多くの場合、何らかの前兆現象が現れます。下に挙げたものは主な前兆現象です。こうした前兆現象に気づいたら、周囲の人にも知らせ、いち早く安全な場所に避難することが重要です。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)の前兆現象

落石



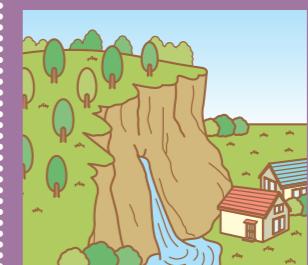
がけから小石がパラパラと落ちてくる。

ひび割れ



木が傾いたり、がけにひび割れができる。

わき水



がけからのわき水が止まつたり、増えたり、濁ってきた。

地鳴り



がけから地鳴りの音が聞こえてきた。

豪雨に
なる前に

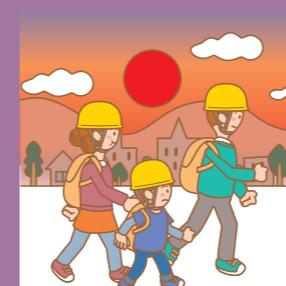
土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難する

市内に土砂災害警戒情報が発表されたら、早めに近くの避難所など、安全な場所に自主避難しましょう。また、強い雨や長雨のときなどは、市の防災行政無線や広報車による呼びかけにも注意してください。



避難するとき、ここに注意!

夜間になる前に 早めの避難



夜間に大雨が予測される際には、暗くなる前に避難することがより安全です。

ほかの土砂災害 警戒区域は通らない



日頃から、近くの土砂災害警戒区域を把握し、その区域は通らずに避難しましょう。

避難が困難な時の 命を守る最低限の行動



避難所への避難が困難なときは、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は、家の中のがけから離れた部屋や2階などの少しでも安全な場所に避難しましょう。